

■ 出会い・ふれあい・学び合い ～みんなで育てる山田の子～（山田小学校）

1 【活動の趣旨】

本校では、地元特産野菜や近くの漁港などの地域の良さ、地域の人とのつながりを活かして、山田のこどもたちを育てる活動に取り組んでいる。また、こどもと大人が学び合い・かかわり合い・喜び合い・認め合うことを積み重ねながら、学校と地域が連携し『地域協働合校事業』を進めている。

2 【特徴的な活動内容】

○野菜を育てよう 【1年生】

1年生では、山田こども園のこどもたちと一緒に、さつまいもの栽培に取り組んだ。今年は猛暑の影響で若干実りが少なかったが、山田園小教育後援会をはじめ、ボランティアや保護者の協力も得て、収穫の喜びを味わうことができた。



【さつまいもの収穫】

○アオバナ探検隊 【3年生】

3年生では、アオバナの栽培に取り組んだ。そして、摘んだアオバナを使ってアオバナ染めのお守りや扇子作りに取り組み、アオバナの魅力をもっと感じることができた。

また、アオバナにまつわる民話の紙芝居や劇、替え歌、○×クイズなど工夫しながら、アオバナのことを山田こども園の園児達に伝えることができた。

さらに、アオバナの魅力をもっと多くの人に伝えようと、学習してきたことやアオバナの絵、川柳等を百貨店の催事会場に展示することもできた。



【こども園での交流会】

3 【実施に当たっての工夫】

○校内掲示板に「地域協働合校」のコーナーを設け、各学年の取組の様子を掲示することで、自分たちの活動を振り返ったり、次の活動に向けて関心や意欲を高めたりすることができた。

○学校ホームページや山田学区まちづくり協議会のLINE、学校運営協議会でこどもたちの活動の様子を伝える（発信する）ことで、保護者をはじめ地域のより多くの方にこどもたちの活動の様子を知ってもらうことができた。

4 【事業の成果】

本校の校区内には、ビニールハウスや農業センター、田畑、漁港など、恵まれた体験の場（環境）がある。また、地域の方々の協力も厚く、共にふれあいながら活動を進めている。地域コーディネーターは、とりわけその要を担っており、地域コーディネーターが中心となって調整を進めることで地域との連携がスムーズに進み、それぞれの学年の活動がより有意義なものとなっている。

5 【事業の今後の展望】

本校の強み（豊富な「かんきょう」資源や「ひと」とのつながり）を存分に活かし、地域と共にふれあいながら体験活動を進めていくことで、自尊感情や地域への愛着（「ふるさと」意識）を育んでいきたい。